

ハ分裂文「AのハBダ」の使用条件について

劉 洋

要旨

本論文は、ハ分裂文における前置要素 A と後置要素 B がそれぞれもつ情報上の特徴と継続・対比の連動性の観点からハ分裂文の使用を選択する要因を考察したものである。A が既出情報で、B が喚起困難情報であり、かつ B が先行文脈で導入されたある不特定な事物を特定する場合は、ハ分裂文の使用が必須である。ハ分裂文が使われやすい場合は、(i) A が既出/喚起可能情報で、B が喚起困難情報である、(ii) A、B とも既出/喚起可能情報である、(iii) A が総括情報で、B が喚起困難情報である 3 つのパターンに分けて考察した。(i)では、B の継続が主な選択要因であり、B の対比が副次的選択要因である。(ii)では、B の対比が主な選択要因で、B の継続が副次的選択要因である。(iii)では、A の継続が選択要因である。

キーワード：ハ分裂文、情報、対比、継続、使用条件

1 問題提起

本稿では、ハ分裂文¹「AノハBダ」の使用を選択する要因について考察する。

砂川（1995）は、ハ分裂文の前置要素と後置要素について、「予測可能かどうか」、「後続文脈で持続されるかどうか」という観点から数量的な調査を行っている。それによれば、後続文脈での持続の面ではそれほど強い傾向性は示せなかったが、予測可能性の面では「A（予測可能要素）ノハB（予測不可要素）ダ」というパターンがかなり安定して用いられているという。そこから、砂川（1995）はハ分裂文の選択が、「先行文脈から引き継いだ情報の配列という点に深くかかわる」として、「ハ分裂文の主たる機能は、予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列するというところに求められる」と結論づけている²。

この「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」というハ分裂文の機能は、ハ分裂文の使用の必要条件であるが、ハ分裂文を選択する動機づけに関する十分な説明にはなっていない。例えば、次の例を見られたい。

¹ 本稿では、砂川（2005：206）に従い、「節が主語になり、その節から特定の成分が取りだされて述部に位置づけられているコピュラ文」を「分裂文」と呼ぶ。また、日本語の分裂文には「AのはBだ」（ハ分裂文）と「AのがBだ」（ガ分裂文）の二つのタイプの分裂文があるが（砂川 1995、2005、伊藤 2000 等）、本稿ではハ分裂文を考察対象とする。

² 砂川（1995）によれば、分かりきったことを文頭という重要な位置に置くことには 2 つのことが関わる、(1) 前置要素が直前指示からの距離が離れていて、予測が困難なものとなるという点でその重要性が高くなる。(2) 冗長性を高める危険があるにも関わらずハ分裂文を用いるときは、会話の含意を生じさせる効果がある。

(1) 警視庁の26歳の警察官が、地下鉄で隣に座った女性の財布から現金4000円を盗んだとして逮捕されました。警察官は調べに対して「間違いありません」と容疑を認めているということです。

(a) 逮捕されたのは、警視庁第九機動隊の巡査長で東京・立川市の北原将人容疑者(26)です。 (NHK 2011年5月14日18時50分)

(b) #警視庁第九機動隊の巡査長で東京・立川市の北原将人容疑者(26)が逮捕された。

(2) マグニチュード(M)9.0を記録した東日本大震災で、震源の東端に位置する海底地盤が約5メートル隆起していたことが、東北大学地震・噴火予知研究観測センターによる水圧計の調査でわかった。M7クラスの地震での隆起は1メートル程度と考えられており、今回は大きな隆起が津波を巨大化させたとみられる。

(a) 水圧計が設置されていたのは、震源から約100キロ東の海底(水深約5800メートル)。海のプレート(岩板)が陸のプレートに沈み込む境界(日本海溝)の付近で、海溝から陸側に約20キロの位置にある。

(読売新聞 2011年4月2日21時28分)

(b) 水圧計は震源から約100キロ東の海底(水深約5800メートル)に設置されていた。海のプレート(岩板)が陸のプレートに沈み込む境界(日本海溝)の付近で、海溝から陸側に約20キロの位置にある。

(1)の場合、非分裂文(b)は不適切であり、ハ分裂文(a)を使わなければならない。一方、(2)では、ハ分裂文(a)、非分裂文(b)はいずれも使用可能であるが、実際にはハ分裂文(a)が選択されている。単に「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」というだけでは、なぜ(1)の場合にハ分裂文の使用が必須で、(2)の場合はそうではないかが説明できない。また、(2)についても、単に「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」というだけでは、ハ分裂文を使用する理由は説明できない。非分裂文(b)でも「水圧計」は主題の形で前置されているからである。

また、次の(3)のように、先行文脈から引き継いだ予測可能な要素を必ずしも前置するとは限らない場合もある。

(3) 9割以上を中国からの輸入に頼る希少金属(レアメタル)の一種「アンチモン」の鉱床を、岡山大や東京大などのグループが鹿児島湾の海底で発見した。(略)

鉱床が見つかったのは、2003年に気象庁が「活火山」に指定した若尊(わかみこ)カルデラの一部。桜島の北東約5キロの鹿児島湾内にあり、約2万5千年前に大噴火した始良(あいら)カルデラの主要火口という。07年に約200度の熱水噴出孔を発見した山中寿朗・岡山大准教授(地球化学)らが、付近の鉱物を調べていた。

(asahi.com 2011年5月15日19時41分)

(3)の下線部の後置要素「付近の鉱物を調べていた」は、先行文脈「カルデラの主要火口」から引き継いだ予測可能な情報、前置要素「07年に約200度の熱水噴出孔を発見した山中寿朗・岡山大准教授（地球化学）ら」は先行文脈で触れられていない予測不可の情報である。この場合は、「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」のであれば、ハ分裂文「付近の鉱物を調べていたのは07年に約200度の熱水噴出孔を発見した山中寿朗・岡山大准教授（地球化学）らである」とハ分裂文が使用されるはずであり、実際使用可能だが、実際は非分裂文が選択されている。

このように、「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」ということは、ハ分裂文を使う必要条件とは言えるが、それだけではハ分裂文を選択する十分な動機とは言えない。

本論では、ハ分裂文は「予測可能な項を前置する」ことを必要条件として、「先行文脈の特定」、「後続文脈への継続」、「先行文脈/後続文脈での対比」のために選択されていると考える。以下、第2節で分裂文の使用と深く関わる「情報」の概念について本論の立場を述べ、第3節、第4節でハ分裂文の使用を選択する要因について考察する³。分裂文の使用は文体的な要因も影響しているため、主観を混じえずに客観的に事実を述べる新聞記事と、話し手の主観的意志を重んじる会話文(シナリオ)に使われたハ分裂文を分析対象とした。

2 既出情報、喚起可能情報、総括情報、喚起困難情報

ハ分裂文の選択には情報の質が深く関わる。情報の新旧についてはこれまで「新情報・旧情報」、「既知・未知」、「予測可能・予測不可(砂川、1995)」、「活性(active)・半活性(semi-active)・不活性(inactive)(Chafe, 1987)」など数多くの概念が提出されている。本稿では、ハ分裂文の使用の立場から、情報を「既出情報」、「喚起可能情報」、「総括情報」、「喚起困難情報」の4つに分類する⁴。

2.1 既出情報

先行文脈またはそれまでの談話の中ですでに出現している情報を「既出情報」と呼ぶ。先行文脈と同じ言語形式を用いる同語反復または言い換えの場合がこれに含まれる。(4)

³ Declerck (1984) は英語の分裂文を「Contrastive clefts」「Unstressed-anaphoric-focus clefts」「Discontinuous clefts」に分けて、それぞれ「Focus」と「Wh/that-clause」の情報の新・旧と談話における対比性・トピック性を論じている。

⁴ Gundel (1988) では、情報の新旧について相対的な立場と指示的な立場の2つに分かれることが指摘されている。ここでの4分類は指示的な立場である。「総括情報」は先行文脈と繋がりがあがる喚起されやすい情報であり、聞き手の認知状態からして「喚起可能情報」の中に属されているが、ハ分裂文の使用においては、「総括情報」の場合は他のタイプの「喚起可能情報」と比べて異なる様相を見せているため、「喚起可能情報」から分離することにした。「既出情報」「喚起可能情報・総括情報」「喚起困難情報」はChafe (1987) の「活性(active)」「半活性(semi-active)」「不活性(inactive)」とほぼ一致している。

のハ分裂文の前置要素「死亡した」は先行文脈「死亡し」の繰り返しであり、(5)の「署名集めに動いている」は先行文脈の「署名集めを始める」の言い換えである。

- (4) 県警高速隊によると、追突された車に乗っていた男女3人が搬送先の病院で死亡し、7人が軽傷を負った。

死亡したのは名古屋市港区港栄、会社員、糟谷ゆかりさん(47)、糟谷さんの娘で高校生、知世さん(17)、知世さんの友人で同県春日井市八田町、同、桐林史樹さん(18)。

(毎日新聞 2011年5月11日20時32分)

- (5) 複数の小沢氏の側近議員は党内で同調者の署名集めを始めるのと並行して、自民党幹部に不信任案の早期提出を持ちかけている。(略)

署名集めに動いているのは小沢グループの中核メンバー。

(msn産経新聞 2011年5月14日2時00分)

2.2 喚起可能情報

先行文脈で現れていないが、談話の流れ、現場の状況によりいつでも喚起できる情報を「喚起可能情報」と呼ぶ。具体的には、先行文脈とのつながりを持つ情報、状況から喚起されやすい情報、記憶にある情報である。以下それぞれの例をあげる。

- (6) マグニチュード(M)9.0を記録した東日本大震災で、震源の東端に位置する海底地盤が約5メートル隆起していたことが、東北大学地震・噴火予知研究観測センターによる水圧計の調査でわかった。(略)

水圧計が設置されていたのは、震源から約100キロ東の海底。

(読売新聞 4月2日21時28分)

- (7) 広瀬「このアパートに残ってるのはおたくだけです！誰も聞いちゃいません！」

(out)

- (8) 弁護側は、被告がソビブル収容所で看守だった証拠はないと主張。さらに「仮に看守だったとしても、大殺害を計画、実行したのはドイツであり、ウクライナ人の戦争捕虜だった被告は命令を拒否できなかった」などと無罪を求めている。

(asahi.com 2011年5月15日8時39分)

(6)は先行文脈にある「水圧計の調査」から「水圧計が設置されていた」ことが自然に喚起されることができる。(7)のハ分裂文の後置要素「おたく」は状況から喚起されやすい情報である。(8)の後置要素「ドイツ」は聞き手の記憶にあると思われる情報である。

2.3 総括情報

先行文脈の内容を総括して提示する情報を「総括情報」と呼ぶ。次の(9)のようなものである。

- (9) 東風汽車集団（湖北省）も日産自動車などとの合弁工場を建設し、8割増の500万台まで年産能力を引き上げる計画。トヨタ自動車などと合弁を持つ中国第一汽車集団（吉林省）、マツダやスズキが組む中国長安汽車集団（重慶市）もそれぞれ500万台を目指す。自主ブランド大手では、米著名投資家ウォーレン・バフェット氏が出資する比亞迪汽車（BYD オート、広東省）が4倍の200万台を計画。（略）各社が生産能力を増強するのは、中国国内のマイカーブームで販売が伸び、生産能力が不足しているためだ。（日本経済新聞 2011年4月14日）

(9)の先行文脈で、「東風汽車集団」「中国第一汽車集団」「中国長安汽車集団」「比亞迪汽車」のそれぞれの会社の具体的な生産計画を述べ、続くハ分裂文前置要素である「各社が生産能力を増強する」がそれらの内容をまとめて提示している。次の(10)でも、「軍」がとった「旧体制の清算や民主化の受け入れ」「憲法改正案の承認」「秘密警察の解体」「前首相の解任」「現首相の任命」「前大統領の不正の取調べ」などの一連の具体的な措置を、「軍が国民の意思を尊重する」と総括して提示している。

- (10) エジプトでは議会選出まで、軍が全権を掌握している。（略）

これまで、市民の政治組織の連合体が要求してきた旧体制の清算や民主化について、軍はおおむね受け入れてきた。

大統領の任期を2期8年までに制限する憲法改正案が国民投票で承認され、秘密警察は解体された。前体制で任命された軍出身の首相は解任され、文民のシャラフ現首相が任命された。

ムバラク前大統領に対するデモ隊への武力行使や不正蓄財の疑いでの取り調べも始まった。

軍が国民の意思を尊重するのは、国民と国際社会の圧力があるためだ。今後も軍の動きに目を光らせる必要がある。（asahi.com 2011年5月9日00時00分）

2.4 喚起困難情報

聞き手にとって知らないと思われる新情報と、先行文脈と関連性があるが、情報量が多くて喚起されにくい情報を「喚起困難情報」と呼ぶ。(11)(12)がそれぞれの例である。

- (11) 逮捕されたのは東京都町田市山崎町、無職、川畑裕太容疑者(29)で、同日朝、相模原市のガソリンスタンドで捜査員に発見されたが乗用車で逃走、愛知県警が追跡を続けていた。（毎日新聞 2011年3月4日）

- (12) 日本年金機構は今秋をめどに、「ねんきんネット」に年金額が試算できる機能を加える。（略）今秋に追加するのは、年金を受け取る年齢や月給の見込み額などを入力すれば年金額が表示される機能。（日本経済新聞 2011年5月14日21時46分）

(11)の「東京都町田市山崎町、無職、川畑裕太容疑者」は聞き手が知らない新情報である。(12)の下線部「年金を受け取る年齢や月給の見込み額などを入力すれば年金額が表示される機能」は先行文脈に出現している「年金額が試算できる機能」と関連性があるが、情報量が多くてより具体的な情報が聞き手にとって喚起されにくい情報である。

3 ハ分裂文が必須である場合

前節の情報の分類をふまえ、本節と次節では、ハ分裂文の使用を選択する要因について考察する。本節でハ分裂文が必須である場合の使用について考察する。

「A ノハ B ダ」分裂文の前置要素「A」が既出情報で、「B」が喚起困難情報で、かつ B が先行文脈で導入されたある不特定の事物を特定する場合は、「A ノハ B ダ」分裂文を使わなければならない。このような場合は非分裂文が用いられない。

(13) 警視庁の26歳の警察官が、地下鉄で隣に座った女性の財布から現金4000円を盗んだとして逮捕されました。警察官は調べに対して「間違いありません」と容疑を認めているということです。

(a) 逮捕されたのは、警視庁第九機動隊の巡査長で東京・立川市の北原将人容疑者(26)です。(NHK 2011年5月14日18時50分)

(b) #警視庁第九機動隊の巡査長で東京・立川市の北原将人容疑者(26)が逮捕された。

(13a)の分裂文の前置要素「逮捕された」は先行文脈に出ている「逮捕されました」の繰り返しで、既出情報である。後置要素「警視庁第九機動隊の巡査長で東京・立川市の北原将人容疑者(26)」は聞き手の知らない喚起困難情報であり、先行文脈において導入された「警察庁の26歳の警察官」を特定化している。このような場合は、(13b)のような非分裂文の使用は不適切で、ハ分裂文を使用しなければならない。

次の(14)(15)も同じような例である。

(14) 米原子力規制委員会(NRC)は10日、アラバマ州北部にあるブラウンズフェリー原発1号機で、事故時に炉心損傷が起きる恐れのある不具合があったとして、運営するテネシー溪谷開発公社(TVA)に最高レベルの安全警告「レッド」を発令した。

(a) 不具合があったのは、事故時に炉心に冷却水を入れるための弁。昨年10月、燃料交換の作業中、弁が開かなくなっていることが判明した。

(asahi.com 2011年5月11日10時12分)

(b) #事故時に炉心に冷却水を入れるための弁に不具合があった。昨年10月、燃料交換の作業中、弁が開かなくなっていることが判明した。

(14) 「AノハBダ」文のA「不具合があった」は既出情報、B「事故時に炉心に冷却水を入れるための弁」は喚起困難情報で、先行文脈「原発1号機」で不具合が起こった場所をより具体的な部分に特定する。

次の(15)は話し言葉の例であるが、やはり同じことが言える。

(15) その手前に一人の藩士が血を吹き出して倒れ、蠅が群がっている。

検分役：(a) 「倒れているのは目付役服部玄蕃殿でがんです。」 (たそがれ清兵衛)

(b) # 目付役服部玄蕃殿が倒れています。

(15)の場面は、不特定の「一人の藩士」が「倒れている」という場面である。この場合、ハ分裂文の前置要素「倒れている」は既出情報である。また、Bの「目付役服部玄蕃殿」は聞き手にとって知らないと思われる喚起困難情報であり、先行文脈にある「一人の藩士」を特定する。

以上述べたようなハ分裂文が必須なケースにおいては、後置要素Bについて更に後続文脈で語り継がれていることが多い。

(16) 日本年金機構は今秋をめどに、「ねんきんネット」に年金額が試算できる機能を加える。年金を受け取りながら働き続けた場合の年金額などを知ることができる。(略)
今秋に追加するのは、年金を受け取る年齢や月給の見込み額などを入力すれば年金額が表示される機能。例えば、65歳まで働き65歳から受給する場合、59歳まで働き62歳から受給する場合など、自分の将来設計に応じて年金額を試算することができる。表やグラフなども使い、いろいろな場合の比較ができるようにする。

(日本経済新聞 2011年5月14日21時46分)

(16)のA「今秋に追加する」は既出情報であり、B「年金を受け取る年齢や月給の見込み額などを入力すれば年金額が表示される機能」は先行文脈で導入された「年金額が試算できる機能」をより詳しく限定するとともに、後続文脈では例を挙げながらより具体的な説明が語り継がれている。次の(17)も同じく特定化された後置要素「付役服部玄蕃殿」が後続文「(付役服部玄蕃殿)の死体を引き取りに行かねばならねのだども、おっかなくて誰も手が出ません」という形で継続されている。

(17) その手前に一人の藩士が血を吹き出して倒れ、蠅が群がっている。

検分役「倒れているのは目付役服部玄蕃殿でがんです。死体を引き取りに行かねばならねのだども、おっかなくて誰も手が出ません。くれぐれも油断なさるな。余吾善右衛門はもはや人間ではねえ、けだものでがんです」 (たそがれ清兵衛)

Aが既出情報で、Bが喚起困難情報である場合、Bが先行文脈にある不特定の事物を特定するのがハ分裂文が選択されることを決める要因である。その上、Bが後続文脈で継続されることが副次的な選択要因であると考えられる。

4 ハ分裂文が選択されやすい場合

次に、非分裂文の使用も可能であるが、実際にハ分裂文が選択されている場合について考察する。新聞記事とシナリオから集めたデータでは、情報上の特徴から前置要素 A と後置要素 B の組み合わせは以下の3つのパターンに分けることができる。

パターン(1) : A が既出/喚起可能情報で、B が喚起困難情報

パターン(2) : A、B とも既出/喚起可能情報

パターン(3) : A が総括情報で、B が喚起困難情報

パターン(1)のハ分裂文の使用では、B の継続が主な選択要因であり、B の対比が副次的な選択要因である。パターン(2)では、B の対比が主な選択要因で、B の継続が副次的な選択要因である。パターン(3)では、A の継続が主な選択要因である。以下、それぞれのパターンについて述べる。

4.1 パターン(1)

筆者が収集したデータでは、「A ノハ B ダ」文の A が既出情報または喚起可能情報であり、B が喚起困難情報で、しかも B が後続文脈で継続される場合はハ分裂文が選択されている。この場合は非分裂文の使用も可能であるが、実際にハ分裂文が用いられている。

(18) マグニチュード (M) 9・0 を記録した東日本大震災で、震源の東端に位置する海底地盤が約5メートル隆起していたことが、東北大学地震・噴火予知研究観測センターによる水圧計の調査でわかった。M7 クラスの地震での隆起は1メートル程度と考えられており、今回は大きな隆起が津波を巨大化させたとみられる。

(a) 水圧計が設置されていたのは、震源から約100キロ東の海底(水深約5800メートル)。海のプレート(岩板)が陸のプレートに沈み込む境界(日本海溝)の付近で、海溝から陸側に約20キロの位置にある。

(読売新聞 2011年4月2日21時28分)

(b) 水圧計は震源から約100キロ東の海底(水深約5800メートル)に設置されていた。海のプレート(岩板)が陸のプレートに沈み込む境界(日本海溝)の付近で、海溝から陸側に約20キロの位置にある。

(18)において(b)のように普通の平叙文を使っても不自然ではないが、「震源から約100キロ東の海底」は予測困難な情報であり、かつ後続文脈で語り継がれているため、(a)のようなハ分裂文がより選択されやすい。

ハ分裂文の後置要素 B が継続のあり方については、B が「後続文脈の主題になる」、「後続文脈の成分になる」、「出来事を導入する」という3つのパターンが観察された。(19)は B が後続文脈の主題になる例、(20) (21)は B が後続文脈の成分になる例、(22) (23)は出来事を導入する例である。

i) 後続文脈の主題

(19) 大手各社は輸出を増やす方針も掲げており、貿易摩擦の火種となる恐れもある。年産能力が最大となるのは、米ゼネラル・モーターズ (GM) や独フォルクスワーゲン (VW) と合弁を組む上海汽車。外資との合弁工場や自主ブランド車の新工場を建設し、10年販売実績比で7割増の600万台まで増産する。

(日本経済新聞 2011年4月14日15時30分)

(19)の後置要素「米ゼネラル・モーターズ (GM) や独フォルクスワーゲン (VW) と合弁を組む上海汽車」は「(上海汽車は) 外資との合弁工場や自主ブランド車の新工場を建設し、10年販売実績比で7割増の600万台まで増産する」とそのまま後続文の主題になっている。

ii) 後続文脈の成分

(20) 観測したのは、東北大が牡鹿半島沖二百数十キロの日本海溝付近で設置していた水圧計。3月末に引き揚げてデータを分析したところ、水圧から推定される水深が、地震後に5メートル浅くなっており、この分隆起したことが分かった。

(asahi.com 2011年4月1日20時06分)

(21) 当初、ビンラーディン容疑者が連携したのは、フィリピン・ミンダナオ島の分離独立を目指すイスラム武装勢力アブサヤフであった。アルカーイダの職員は、アブサヤフの軍事訓練キャンプで爆弾や小銃の使い方を指導した。

(msn産経ニュース 2011年5月6日19時35分)

(20)のハ分裂文の後置要素「水圧計」は後続文のヲ格になり、「3月末に(水圧計を)引き揚げて」と継続されている。(21)の後置要素「フィリピン・ミンダナオ島の分離独立を目指すイスラム武装勢力アブサヤフ」が後続文の連体修飾成分として継続されている。

iii) 出来事の導入

(22) 「ゴンのような犬が山本さん宅のあったあたりにいた」と連絡があったのは被災から4日後の朝。近所の人が山本さん宅付近でうろうろしている犬を見つけ、車に乗せて避難所まで運んだ。特徴のある茶色と黒が交ざった背中としっぽの毛。百合子さんが「ゴン」と呼ぶと車から降りて駆け寄ってきた。百合子さんは「おまえだけでも生きていて良かった」と涙を流し、抱きかかえられたゴンは足を震わせていた。

(毎日新聞 2011年4月2日15時00)

(22)のハ分裂文の後置要素「被災から4日後の朝」が時間を表わす要素であり、後続文でその時間に起こった出来事「ゴンが救助される経緯」が述べられている。後置要素が時間を表わす要素の場合、出来事を導入することが多い。次の例も同じである。

(23) 突入したシールズ隊員らが実際のターゲットの名前、それがビンラーディン容疑者であることを聞いたのは、「突入直前」。ヘリの中で瞬間、緊張で張りつめていた隊員らの間に大歓声が沸き起こった、という。

(msn 産経ニュース 2011年5月4日 22時58分)

Aが既出情報または喚起可能情報、Bが喚起困難情報である場合にBが継続されてハ分裂文が選択される例は多いが、それ以外に対比する⁵要素が存在するためハ分裂文が使われる例もある。(24)のような例である。

(24) 売上高の見通しを引き下げたのは207社。その一方で、復旧に必要な商品の需要が高まるなどし、売上高や利益の見通しを引き上げた企業が5社あった。

(asahi.com 2011年5月11日 19時39分)

(24)の後置要素「207社」について、後続文脈で語り継がれていないが、前置要素「売上高の見通しを引き下げた」と後続文脈の「売上高や利益の見通しを引き上げた企業」、後置要素「207社」が「5社」と対比している。

パターン(1)のハ分裂文の使用において、Bの継続のが主な選択要因であり、対比が副次的な選択要因だと考えられる。第1節で挙げた(3)の「07年に約200度の熱水噴出孔を発見した山中寿朗・岡山大准教授(地球化学)らが、付近の鉱物を調べていた」の文において、喚起可能情報が前置されず、ハ分裂文が選択されないは、「継続」または「対比」といった選択要因が存在しないためだと考えられる。

4.2 パターン(2)

筆者が収集したデータでは、ハ分裂文の前置要素Aと後置要素Bがともに既出情報、または喚起可能情報であり、先行文脈にBと対比的な内容が存在する場合、ハ分裂文が選択されている。次(25)(26)はその例である。

(25) 逸平「(頷き) ありがとう。(と握り飯にむしゃぶりつく) だけど驚いたな。君がここに住んでいるなんて」(略)

逸平「だってほら、ここを使っていたのは君のお父さんだけだったろ。しばらく隠れようと思って来たんだよ」 (笑う蛙)

(26) 光子「わたしね、あのアパートだって、こんな服だって、あなたの前で恥ずかしいって思ったことなんてないのよ。—恥ずかしいって思ってるのはあなたよね。」

(UNLOVED)

⁵ 対比について、野田(1996)は「対立的な対比」と「並列的な対比」の2種類があると指摘している。

(25)のハ分裂文の後置要素「君のお父さん」と先行文脈に現れた「君」と対比されている。(26)後置要素「あなた」と先行文脈「わたし」が対比されている。

話し言葉においては、発話状況が意味理解に大きく寄与するため、対比される要素が言語化されない場合もある。次の(27)では、後置要素「お前を斬ってから」と対比する要素は現れていないが、発話の状況と話の流れから、「今」と対比して「逃げるのは今ではなく、お前を斬ってからだ」ということになる。

(27) 清兵衛「あなたはさっきまで逃してくれって言ってたではねえか。私はそのつもりになっていました」

余 吾「黙れ！逃げるのはお前を斬ってからだ。抜くぞ」 (たそがれ清兵衛)

また、例が少ないが、後置要素 B が対比を表さない場合も観察された。その場合は B が後続文脈で継続されている。(28) のような場合である。

(28) 涼子「でも、それも徐々に変わっていった」

逸平「僕が変わったのは君のママとパパのせいだよ。あの二人が僕らの生活にズカズカ入り込んできて、僕がどれほど息苦しかったか……」

(UNLOVED)

後置要素 B が対比を表わすと同時に、後続文脈で語り継がれる場合もある。次の (29) は、ハ分裂文「我々が問題にしているのは価格です」の後置要素「価格」が相手の発話にある「納品」、「アフターケア」と対比されると同時、後続文で「価格」に対する具体的な要求「あと十五%ディスカウント」が語られている。

(29) 涼平「……我々は五年前に JVC アメリカを設立していますのでスムーズに納品出来ますし、アフターケアも万全です。」

米人の一人「我々が問題にしているのは価格です。あと十五%ディスカウントしてくれれば契約しますよ」 (陽はまた昇る)

パターン(2)のハ分裂文の使用において、B が対比を表すのが主な選択要因であり、継続が副次的な選択要因であると考えられる。

4.3 パターン(3)

筆者が収集したデータでは、前置要素 A がそれまでの情報を総括して提示する総括情報、B が喚起困難情報で、A が継続される場合はハ分裂文が選択されている。この場合、B が原因節であったり、副詞「初めて」が用いられたりすることが多い。(30) は B が原因節の例で、(31) は B が「初めて」の例である。

(30) 年産能力が最大となるのは、米ゼネラル・モーターズ (GM) や独フォルクスワーゲン (VW) と合弁を組む上海汽車。外資との合弁工場や自主ブランド車の新工場を建設し、10年販売実績比で7割増の600万台まで増産する。

東風汽車集団 (湖北省) も日産自動車などとの合弁工場を建設し、8割増の500万台まで年産能力を引き上げる計画。トヨタ自動車などと合弁を持つ中国第一汽車集団 (吉林省)、マツダやスズキが組む中国長安汽車集団 (重慶市) もそれぞれ500万台を目指す。

自主ブランド大手では、米著名投資家ウォーレン・バフェット氏が出資する比亞迪汽車 (BYD オート、広東省) が4倍の200万台を計画。米フォード・モーターから高級車ブランド「ボルボ」を買収した浙江吉利控股集团も5倍の200万台を目指す。(略)

各社が生産能力を増強するのは、中国国内のマイカーブームで販売が伸び、生産能力が不足しているためだ。現在は東日本大震災による部品調達難も一部で起きているが、15年に向けては外資メーカーの現地生産拡大などで完成車の能力増強に対応できる見通し。
(日本経済新聞 2011年4月14日)

(30)の先行文脈で、「東風汽車集団」「中国第一汽車集団」「中国長安汽車集団」「比亞迪汽車」のそれぞれの会社の生産計画を述べ、続くハ分裂文の前置要素である「各社が生産能力を増強する」はそれらの内容をまとめる情報である。後続文の中の二格で継続されている。

後置要素 B が「初めて」の場合は、その直前の文を要約するのが多い。

(31) 新聞弁公室はまず25の政府白書を中国語と英語で提供。過去の記者会見も20件ほど用意した。中国政府がiPadを活用するのは初めてで、国際的なイメージアップが狙い。
(日本経済新聞 2011年4月18日)

(31)のハ分裂文の前置要素「中国政府がiPadを活用する」が先行文脈「新聞弁公室はまず25の政府白書を中国語と英語で提供。過去の記者会見も20件ほど用意」をまとめて提示して、後続文で「国際的なイメージアップが狙い」の主題として継続されている。

5 まとめ

本稿ではハ分裂文における前置要素 A と後置要素 B がそれぞれもつ情報上の特徴と継続・対比の連動性の観点からハ分裂文の使用を選択する要因を考察した。まとめると次の表のようになる。

ハ分裂文「AのハBダ」の使用条件について

ハ分裂文	情報上の特徴		談話における機能		
	前置要素 A	後置要素 B	先行文脈の 特定	後続文脈への 継続	先行/後続文脈との 対比
必須	既出	喚起困難	○ (B)	△ (B)	—
使われや すい	既出/喚起可能	喚起困難	—	○ (B)	△ (B)
	既出/喚起可能	既出/喚起可能	—	△ (B)	○ (B)
	総括	喚起困難	—	○ (A)	—

(○は主な選択要因 △は副次的な選択要因)

ハ分裂文の使用において「予測可能な項を前置して、先行文脈になるべく近い位置に配列する」ことは必要条件であるが、それだけでハ分裂文が選択されているのではない。より重要な動機は先行文脈の特定、後続文脈への継続、先行文脈または後続文脈との対比である。今回は新聞記事とシナリオのデータを用いて分析したもので、文学作品においては修辭的な要因も影響するため、より多様なふるまいをすることが予想される。この点について今後の課題とする。

参考文献

伊藤晃 (2000) 「「は」分裂文と「が」分裂文の談話における機能」『現代言語学の射程』: 335-354 英宝社。

砂川有里子 (1995) 「日本語における分裂文の機能と語順の原理」『複文の研究 (下)』: 353-388 くろしお出版。

砂川有里子 (2005) 『文法と談話の接点』くろしお出版

野田尚史 (1996) 『新日本語文法選書 1 「は」と「が」』くろしお出版

Chafe, W. 1987 “Cognitive Constraints on Information Flow” in R.Tomlin ed., *Coherence and A Grounding in Discourse*, 21-51. Amsterdam: John Benjamins

Declerck, R 1984 “The Pragmatics of IT-Clefts and WH-Clefts.” *Lingua* 64: 251-289

Gundel, J. K. 1988 “Universals of Topic-Copmment Sturcture.” in M. Hammond et al, eds., *Studies in Syntactic Typology*, 209-239. Amsterdam: John Benjamins.

<例文出典>

『たそがれ清兵衛』『笑う蛙』『UNLOVED』『陽はまた昇る』: 『年鑑代表シナリオ集'02』シナリオ作家協会出版

『毎日新聞』『朝日新聞』『MSN 産経新聞』『日本経済新聞』『読売新聞』ウェブニュース

(りゅう よう 言語社会研究科博士課程)